

グループホーム まごころ

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「優しい心を大切にし温かい家族になります」「穏やかでゆったりとした日々を共に歩みます」という理念を昨年開設時の職員全員で意見を出し合いつくっている。利用者本位、寄り添う介護、地域との連携などの思いや意見を「温かい家族になる」と言う言葉に集約した。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		「家族になる」というキーワードは忘れないようにしている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		玄関に理念は掲げているが、理解や浸透に向けて積極的取り組みはできていない。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		散歩の時など挨拶を交わす方が増えてきたが、近隣とは敷地の高低差があり、毎日顔を会わす状況にない。花の苗をAから沢山いただき、お裾分けした時は喜んでいただけ。・・・近所の猫はよく遊びに来る。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		子供会の資源回収など気づいたこと出来る事は協力している。高齢者を対象とする行事等には、地域の方が受け入れてくだされば極力参加している。 来年度から、地域の盆踊りをGHの敷地を利用していただくよう、区長さんと相談済み。

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	できていない		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			初めて自己評価外部評価なので、今後評価内容を活かせるよう取り組みたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では貴重な意見をいただいているが、開催回数がまだ4月開設から4回と少なく、毎回テーマを1～2に絞って話し合い等行っているため、課題として挙げきれない部分が沢山ある。		評価内容の報告をし、改善点等話し合いを重ねサービスを充実させていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当課の方は、介護保険制度上の判断に困った時などは親身に相談に乗ってくださる。窓口を訪ねた時などは気軽に話しかける関係はできている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時にご家族ご本人に地域権利擁護事業、成年後見制度についてパンフレットを渡し説明している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設での研修に参加、また老健協会等からの資料で学ぶ機会は持つようにしている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	ご家族は納得しているが、本人は良く分からなかったり納得しないままということがある。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者とスタッフ間のコミュニケーションは図れているが、文書で受ける手段等はできていない。苦情相談窓口(行政窓口を含)については重要事項説明に入れている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	日々の様子と健康状態については月に1度、職員の異動については随時、文書で行っている。預かり金の収支については年度末に文書で報告予定。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	文書で受ける手段等はできていない。苦情相談窓口(行政窓口を含)については重要事項説明に入れている。面会時等はできるだけお話するようにしている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月に1度、職員全員のミーティングを持っているが、積極的に意見を出し合うまでには至っていない。		今年度は新規開設のため、職員自身が職場に馴染み体制を整えたり、利用者の受け入れ等で精一杯のところがあったので、次年度はもうワンステップ進んだ意見が出し合えるよう努めたい。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	要望には極力対応している。行事計画に合わせ多少勤務調整をすることがある。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	7人の介護職員の内6人が1年毎の契約社員という、「職員満足」の観点からは満たされる環境ではない。今後離職率は低いと予測される。利用者へのダメージ抑制の対応策は課題である。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	充分とはいえない。		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	機会があれば研修等に参加する。		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	併設老健で「勉強会」を2ヶ月1度開催する事になっている。		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	京築地区のグループホーム連絡協議会に管理者が出来るだけ出席するようにしている。		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	1ユニットのため少ない人数狭い空間という環境で認知症の介護に従事することはストレスフルであるにもかかわらず、全く配慮はない。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	入居数意外に興味はない。職員のモチベーション向上は困難。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族と利用者一緒に面談するケースが多く、ご本人の事についてもご家族が代弁する形になるため、入居後に「私は本当は・・・」と言われる事がある。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居前に何度がお話できる方もいるけれど、ほとんどの場合は1度見学にこられ、その際入居の申し込みをされる。この時に詳しくお話を伺うけれど、次に来訪された時はもう入居の契約をなさることが多いので入居前に会うのは2度のみの方が多。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、残されるご家族に何らかの支援の必要を感じ、在宅介護支援センター、ケアマネージャーと連絡調整したし、連携を続けている方がいる。状況に応じ、他の施設及びサービスを紹介した例等ある。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が納得するまで、1週間は通い(地域の方として遊びにきていただいた)、続いて8日程は毎日外泊をした後に本格的に入居なされたという例はある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、家族として役割をもっている。畑の野菜の収穫時期等は先輩方である入居者に相談する。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	機会は少ないがご家族にホームを訪問していただく行事等を意識的に行っている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会時に、ご本人の心身の状況やご家族への思いなど伝え、相談するなどしている。面会の少ないご家族とは関係が希薄になりがちである。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の誘いによる外出機会を家族に承諾いただいたり、馴染みの美容院への送迎等行うなどの努力はしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	良好な関係、調整の必要な関係を見極めつつ、その時々々の状況に応じた調整を行い、心地よく過ごせるよう努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまでにサービス終了した方は1人で、ご本人が併設の老健デイケアを利用しているので、職員とも入居者とも会う機会があり、自然に関係が続いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	読書が好きな方、畑の草むしりが好きな方等、はっきりと希望が見える方は対応できている。睡眠時間等もある程度自由にいただいている。希望や意向については記録や申し送りで情報は共有し、必要に応じ検討している。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人と話す以外にも、家族や担当のケアマネージャー、在宅サービス事業者、医療ソーシャルワーカー、在宅介護支援センター等が入居前に関わりのあった人や事業所等と連絡相談し、得た情報を基に管理者がフェイスシートを作成し職員へ周知を図っている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(36)の内容に加えて主治医の診断書または診療情報提供書を参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人ご家族の意向は聴き計画内容は説明しているが十分な話し合いや理解が得られるに至っていない。包括的支援方式ソフトを使用しており、計画作成者がで計画作成を行っている。		アセスメントツールにセンター方式を一部でも活用したいと考えている。職員、家族、本人と介護計画について話し合う機会を定期的に持てるようにしたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した時、短期目標期間の終了時、介護度変更時は見直しをするが、入居期間がまだ短い方が多く、見直し例は少ない。		アセスメントツールにセンター方式を一部でも活用したいと考えている。職員、家族、本人と介護計画について話し合う機会を定期的に持てるようにしたい。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々簡単な記録は残している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームが属す地域担当の民生委員は運営推進会議の委員をお願いしている。ボランティアは積極的に受け入れたいと考えており、すでに数名の方が定期的に関わってくれている。警察、教育機関等とは関係づくりが進んでいない。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	経済的問題で、いずれ他の入所施設へ移ることを検討している方が居られ調整中。冬季のみの入居の方が居られ、在宅復帰に向け、居宅のケアマネジャー等と連絡調整している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの社会福祉士1名に運営推進会議の委員をしていただいているが、その他、特に接点がない。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、家族、本人の希望する医療機関を利用していただいている。必要であれば受診の送迎や付き添いもおこなっている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が数箇所あり、中でも近地の個人医院のDrが相談や往診等、協力してくださっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護職員が必要に応じ、相談や訪問等してくれている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	必要に応じ行っている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	入居前に話はするけれど繰り返しの話し合いはできていない。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	ホームに看護職員が居らず、入浴設備が身体的に重度の方に対応できる様式になっていないため、終末期までの支援体制は整っていないことを入居時ご家族に説明している。チームは出来ていない。		認知症が重度化したとき、如何に過ごしていただくか何が出来るかを検討する必要がある。
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入院中の方が居られ、退院後について、ご家族や入院先のソーシャルワーカー等と相談している。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個人の記録は施設できる所に保管する。言葉賭けについては基本「さん」付けで呼ぶが、苗字には反応しないが、馴染みの呼び名に反応する方が居られ、その方は馴染みの呼び名で呼ぶことがある敬語で違和感がある場合普通語を使用している。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事やティータイムを共にし会話する機会を持つようになっている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制はしていないが、ほぼ職員側からの働きかけで生活が流れることが多い。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの店がある方は必要に応じ送迎している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みについては入居前に必ず尋ねる。また、日常の会話の中や食事の時など気づけばメニューに反映させる。積極的に調理に興味を示す方がいない。お米をといたり、テーブルを拭いたり、もやしの根を取るなど簡単なことは職員から働きかければ一緒にして下さる方はいる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事の献立は利用者の好みを取り入れながら立てているが「日常的に楽しめる」事とは程遠い。酒タバコは全く取り入れていない。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿便意の感覚が無い方は時間を見計らって誘うようになっているが、そのほか特別な取り組みはできていない。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できていない。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は自由にさせていただいている。朝は朝食前に声かけするが強制はしない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の掃除はほとんどの方が参加する。掃除機担当、拭き掃除担当など、いつの頃からか担当が決まって、声掛けに応じてという方もいるが、それぞれ自分の道具を手に入れている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの食材の買出しには同行していただくが、個人がお金を使う機会はほとんど無い。		個人の日用品が必要な時や病院へ受診した時などは自分で支払いをしていただくことも検討していきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出かける機会は作るようにしているが、個々のニーズに合わせるまではできていない。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員で遠出する機会は月に1度程度はもうけている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できていない。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室で過ごされたり、共有の場所で過ごされたり自由にしていただいている。リビングから離れた廊下の突き当たりソファを備えているが活用はされてない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の出入り口の扉に鍵は着いていない。窓も夜間以外施錠しない。(昼間も自分で鍵をかけ、カーテンを閉める入居者はいる) 玄関は鍵をかけず、音楽の鳴るセンサーを設置している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間、居室に入る時は声をかけるかノックをする。しかし、昼間居室で過ごす方は少なく殆ど数人もしくは全員一緒に共有部に居ることが多い。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針や鋏、薬品などは鍵のかかる場所もしくは目に着かない場所に保管管理している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	開設時、転倒、窒息、誤飲、誤嚥等については研修を行った。離設の危険性のある方は町社会福祉協議会が窓口の「徘徊SOSネットワーク」に登録し、警察他様々な協力者へ連絡が回るようにしている。		防止方法については研修を重ねる必要がある。

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練は開設時に行ったのみ。連絡体制についてはあわてた時でもわかるよう電話の前に張り紙をしている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、夜間火災想定避難訓練は行ったが近隣の方への働きかけは行っていない。災害時の備蓄品については併設老健で準備している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に起こりうるリスクを説明している。入居後も身体及び精神状態等の変化について随時説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気づきは小さなことも報告し合い、申し送りや申し送りノート、業務日誌他の記録で当日居ない職員へも伝わるようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「服薬の支援」は出来ているが、副作用等については全員に徹底できていない。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝の体操は日課になってきた。掃除や散歩、外出等で運動も多少できている。献立に食物繊維を含む物やヨーグルト等便秘予防食品を取り入れている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後マウスケアを行っている。自分では充分出来ない方は職員がフォローしている。義歯の方は週に一度義歯洗浄剤を使用している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分量のチェックはしている。一日1000cc以上を目安にしている。好みに合うものを提供できるよう心掛けている。摂取量の少ない方は、回数を増やすなどしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いは利用者職員共心掛けている。利用者のタオルは原則個別にしている。共用のタオルは一日、最低3回交換している。手で触れる所は毎朝次亜塩素酸ナトリウム希釈液で拭いている。ノロ発生時の対応については資料を使い申し合わせている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は使用の度に乾燥機で充分乾燥させている。まな板包丁などの調理器具は一日一度、熱湯と次亜塩素酸ナトリウム希釈液で除菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉は常時開放している。玄関は施錠しない。フェンス沿いに植木を植えフェンスの冷たさを和らげたり、玄関先は花を植えるなどして温かみのある雰囲気作りをしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングダイニングの南と西に窓があり、西日の差し込みがきつい。カーテンで調整している。玄関前アプローチには季節の花を欠かさないようにしている。リビング前に菜園を設けている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	提供できる場所は少ないけれど、リビングから離れた廊下の突き当たりにソファを設置している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具は馴染みの物を持ってきていただくようにしている。カーテンはホームで準備するが、見本の中から本人に好みの物を選んでいただいている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムになっている。他に朝の掃除の際など、出来るだけ窓を開け外気を取り入れる。室温は本人の好みや体調等考慮し調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく手すりを付けている。各室とトイレの出入り口を直線の廊下沿いに設け、ダイニングから見通せ、遠くからでも見守り出来るつくりになっている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは「便所」と大きく張り紙をしている。居室は各室ネームプレートにフルネームで標記している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏場は、菜園での野菜の収穫、草取り、水巻など楽しんでいただける。職員同行で、併設老健へ遊びに行ったり老健の庭を散歩したりしている。		

グループホーム まごころ

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム まごころ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近隣の方と関わりを持つことが、すぐには難しい立地条件のため、ボランティアの方に来ていただくことを地域との関わりの切欠にしたいと考え、開設時から、お出かけの付き添いなどに来ていただいています。